

## 第24回ズーム三水会記録

日時：2023年6月21日（水）16時～18時

発表テーマ：雑談的ラテンアメリカ論

発表者：石塚秀雄氏

参加者 14名（敬称略） 團野廣一 野口幹夫 波治裕美 富沢賢治 石塚秀雄 村澤澄子

小関 栄 中村範子 齊藤嘉璋 杉本茂樹 大和田巖 岩垂弘 丸山茂樹 岡本好廣

**報告内容：**演者は1970年代からたびたび調査の目的で南米各地を訪問された。当時の印象はアメリカなど先進国との格差の大きさに驚き、社会状況もまるで日本の戦国時代であるとの印象を受けられた。その歴史的背景を年表によって解説された、そして現在のラテンアメリカ諸国の社会状況の変化について国別に説明された、そして共通の特徴としての協同組合運動とその文化思想について詳しく語られた。現在利益追求型の資本主義グローバリズムが格差社会を生み地球環境の破戒を生み行き詰っている中で、ラテンアメリカ諸国が社会共同経済の道を歩み始めようとしていることは、未来の世界の先頭を示している。

**質疑討論：**多くの質疑討議が行われたが、それは次のユーチューブをご覧ください。

当日の録画のユーチューブ：

<https://youtu.be/rqqwplSqkgo>

添付資料 ① 18世紀のアメリカ大陸地図

② 講演レジメ 雑談的ラテンアメリカ論

③ 三水会終了後の石塚秀雄氏コメント

# 原料



糸線  
スペイン帝国最大領土

## 雑談的ラテンアメリカ論

### 総論

#### 1. ラテン(イペロ)アメリカの規模

ラテンアメリカは 19 世紀になってから(フランス、イギリス、ドイツ、オランダなど)。植民他と移民(ヨーロッパ全域、ロシア圏)の地域。

- ・国数⇒北米(2)・中米(8)・南米(12)・カリブ海諸国(13) :#計 33 カ国
- ・総人口⇒6.3 億人(8,4%)、ブラジル 2.1 億人、メキシコ 1.3 億人、コロンビア 5,000 万人、アルゼンチン 4,600 万人、ペルー 3,400 万人、ベネズエラ 2,700 万人、チリ 2,000 万人、
- ・人種、民族⇒ヨーロッパ系移民、アジア系移民、土着インディオ、混血メスチゾ、ムラート、クリオージョ(白人子孫)、黒人国(カリブ諸国)
- ・言語、スペイン語、ポルトガル語、土着語。英語、他。
- ・米国におけるラテンアメリカも念頭に⇒スペイン帝国は米国の西半分を領土としていた。ニューヨークのラテンアメリカ⇒アメリカの人口の 20%はヒスパニック系である。スペイン語ができないと大統領になれない。
- ・難しかったラテンアメリカ研究 1970 年代⇒統計資料の入手困難、現地在住調査困難、

#### 2. ラテンアメリカの政治経済

- ・コロンブス以後からの歴史⇒スペイン帝国のエンコミエンダ制度(委託 encomienda)とアシエント(王室独占納入契約、asiento)制度。滅びたインカ・アステカ文明、移民の国。植民地としての 500 年の歴史の浅さ、ヨーロッパへの供給地、モノカルチャー
- ・19 世紀は独立、民族の時代⇒、ヨーロッパの社会変動、ナポレオン戦争⇒ラテンアメリカ人のルーツ、アイデンティティとは⇒多様な人種、民族と階級対立、
- ・シモン・ボリバル(コロンビア)のラテンアメリカ合衆国の夢
- ・1970 年までの各国軍事政権、内戦はなぜ起きたのか。⇒弱い市民社会、弱い国家、絶対的矛盾
- ・20 カ国のうち 15 カ国が軍事政権。軍事政権が出来なかった国(メキシコ、コスタリカ、ベネズエラ)、アメリカの裏庭と反共主義(キューバ革命 1960、ベトナム戦争、ユナイテッド・フルーツの支配、麻薬貿易、)、域内国家間の戦争(紛争)⇒地域紛争
- ・1990 年代、新自由主義の嵐⇒格差拡大、WB, IMF の支配目指す。民衆層の反乱、民主化と左派政権とポピュリズムはなぜ出現したのか。
- ・1990 年代の新自由主義とその失敗、格差増大、
- ・結束するラテンアメリカと今後、経済共同体ネットワーク、

### 年表

年	国名	事項
1492	アメリカ発見	コロンブス、スペインカトリック両王がパトロン
1494	法王によるアフリカ・南米分割子午線	トルテシリアス条約、後に結果的にブラジルがポルトガルに
1520	ポルトガル	マゼラン、ブラジル発見
1529	スペイン・ポルトガル	サラゴサ条約分界線、日本ポルトガル勢力圏に
1549	日本	ザビエル来日
1586-	イギリス	ドレイク私掠船、
1600	アフリカ黒人奴隷	負けた部族が奴隷に。100 年でインディオ絶滅

	オランダ	化。ラスカサス「インテイス報告書」 東インド会社(イギリス・フランが続く)
1615	米国	清教徒上陸
1625	オランダ	ニューアムステルダム建設、1664 イギリスが ニューヨークとする。
1805-	ナポレオン戦争	スペインがフランス領となる。結果的にアメリ カ大陸も。
1810	チリ アルゼンチン	独立戦争開始 独立戦争開始
1812	ベネズエラ ペルー	独立、シモン・ボリバル 独立戦争開始
1820	コロンビア	独立、シモン・ボリバル
1932	ブラジル	立憲革命
1860	仏墨戦争	ナポレオン三世、メキシコ、フランスに。
1865	米国	南北戦争
1868	スペイン	名誉革命
1870	ドイツ	プロシヤ統一
1872	イタリア	国家統一
1897	米西戦争	スペイン、キューバ、メキシコ、フィリピンなど 失う
1917	ロシア	ロシア革命、ドイツ第一次世界大戦
1932	ドイツ 日本	ヒトラー政権 満州国建設
1937	スペイン	国際的内戦、
1942-1945	世界	第二次世界大戦、冷戦の開始 結果として植民地の独立化、
1954	ベトナム	フランス撤退、アメリカの介入開始
1961	キューバ	社会主義宣言
1973	チリ	民主連合政府からピノチエト軍政へ
1979	ニカラグア	内戦、サンティニスタ革命
1980-1995	ラテンアメリカ	新自由主義、世界銀行、国際通貨基金、民営 化、自由化、
1989	パナマ	米国、パナマ運河占拠
1991		メルコスル結成、
1996	ペルー	ブシモリ政権
1998	ベネズエラ	チャベス左派政権
2002	ブラジル	ルラ左派政権
2003	アルゼンチン	左派政権
2005	ウルグアイ	左派政権
2006	ボリビア	左派政権
2022	中道左派・左派政権	メキシコ、ニカラグア、ホンジュラス、コスタリ カ。 ベネズエラ、コロンビア、ペルー、ブラ ジル、チリ、アルゼンチン

## 各論

### 3. メキシコ

- ・ 革命国家としてのメキシコ、 サンチョ・ビジャ、ラクカラチャの歌、
- ・ 亡命者の国、トロツキーの家と暗殺、
- ・ 米墨戦争に負け北米の領土を失ったこと。 グリンゴ嫌い、
- ・ インディオ比率 22%,チアパス州反乱、
- ・ 1917,年憲法(2021年改正)第 25 条 coop 等規定
- ・ 1938 年協同組合法(1994 年改正)
- ・ 2012 年社会的連帯経済法,ejidos 共有地,comunidades 含む、

### 4. ペルー

- ・ 貧困格差が極左を生んだ、リマ大学の本屋に毛沢東の本積み上がる。
- ・ ブシモリ氏は日本に失望した。軍部に依存、貧困格差が極左を生む。
- ・ 天野美術館のこと、 天野芳太郎氏は近衛首相と友達だった。財宝発掘。
- ・ 日本水産研究所のこと

### 5. アルゼンチン

- ・ 定常社会の実現。借金なんてこわくない、世界で 8 番目の豊かな国だったこと。
- ・ フォークランド戦争、ヨーロッパのかさぶた
- ・ チェ・ゲバラのこと
- ・ 豊かさの象徴タンゴ、
- ・ 労働者協同組合、電力協同組合、公益協同組合、  
社会的経済推進州法

### 6. ウルグアイとパラグアイ

- ・ 協同組合国家、協同組合の歌、
- ・ 貧乏哲学のムヒカ大統領
- ・ ウルグアイ 2020 年社会的連帯経済法、

### 7. チリ

- ・ 民主連合政府崩壊後ピノチエト政権とアメリカ
- ・ 詩人ネルーダ`のこと
- ・ チリワインのこと
- ・ 1920 年協同組合法

### 8. キューバ

- ・ 明るい北朝鮮、アメリカに近すぎることの不幸、
- ・ インフラ資金がない、乗り合い自家用車
- ・ おずおずとした社会主義のイノベーション
- ・ カストロ、ゲバラの娘達、
- ・ 広場で出会ったタバコ売り・売春する娘
- ・ 外貨獲得としての医療産業、マイケル・ムーア監督『シッコ』
- ・ キューバ憲法のこと(社会主義へのこだわり)。ベネズエラとの関係、(補、コスタリカ憲法のこと)
- ・ 2019 年キューバ憲法改正と所有形態の追加について  
現行キューバ憲法の前身は、1876 年憲法および 1992 年憲法である。  
ソビエト憲法における所有規定とキューバ憲法の規定  
1976 年キューバ憲法の所有の規定において、1936 年のソビエト社会主義共和国同盟憲法

(以下、ソビエト憲法)を参考にしていることは、その類似性から明らかである。

キューバ憲法における所有形態規定

2019年憲法の第2章「経済基盤」第22条は「所有形態」を次のように規定している。

「所有の諸形態はつぎのようである。すなわち、

a) 全人民的社会主義的所有: 国家が代表となり、所有者として利益を扱う所有。

b) 協同組合的所有: 所有者組合員の共同的な[コレクティブ]な労働と協同組合主義の原則の効果的な実施に支えられた所有。

c) 政治組織、大衆組織、社会組織の所有: それらの組織がその目的の遂行のための資産を使用するための所有。

d) 私的所有: 自然人、キューバの法人、外国法人による生産手段に限定され行使される所有。すなわち、経済における補完的な役割。

e) 混合的所有: 所有の二つ以上の形態を結合した形式の所有。

f) アソシエーション的な組織または形式の所有: その営利目的の遂行のために執行する所有。

g) 個人的[パーソナル]所有: 生産手段を形成することなく、その名義人の物質的・精神的必要を満足させるための所有。

## 8. ブラジル

- ・ポルトガルは協同組合国家であり、ブラジルも協同組合が発展。
- ・農協、信用協同組合、事業、保健、運輸、住宅など。
- ・ICA 会長出す。
- ・1971年 協同組合法
- ・2002年 サービス協同組合法
- ・2012年 労働協同組合法

## 9. ラテンアメリカの協同組合運動と文化

- ・イエズス会(1540)の伝道共同体⇒1606-1767、ミッシヨン、misiones reducciones, 1640年 152 地域農業牧畜生産生活コミュニティ、⇒1980s-先住民共同体運動、
- ・解放の神学、ヨーロッパ思想の流入、
- ・インティアスの存在⇒アステカ、マヤ、インカなど 1520年代に滅ぶ。メキシコ(22%)、グアテマラ(44.4%)、ボリビア(62%)、ペルー(14.5%)、ニカラグア(10.6%)、
- ・思想⇒イバン・イリイチ(1970s, convivir, 共生、先住民貧困の克服)、ドスサントス(1980s, ラテンアメリカ従属論、社会主義革命)、パウロ・フレイレ(1968, 『被抑圧者の教育学』、協働の哲学)など、
- ・マジック・リアリズム⇒ガルシア・マルケス、ジョサ、など
- ・音楽⇒ラテン、キューバ、タンゴ、フォルクローレ、
- ・協同組合思想・社会的連帯経済がなぜ盛んなのか。弱い国家と共同体文化、
- ・民衆経済、ブエン・ビビールなどの共同体思想、
- ・ラテンアメリカの人々⇒ヨーロッパ系、混血系、黒人系、インティオ系、アジア系、などの人種・階級の組み合わせ、良かれ悪しかれ国家意識で統合できないこと、

## 10. 結び

めざせ、ラテンアメリカ合衆国または ULA(ラテンアメリカ連合)、国際的分業による経済連合。



ズーム三水会討議終了後の発表者 感想

2023-6-21

石塚秀雄

昨日は いろいろご意見をいただき参考になりました。

つたない話でしたが、現時点での自分なりの考え（仮説）を述べることができました。

今のグローバルサウスの議論は旧来の周辺論すなわち、資本主義的先進国の追随者あるいは保管物というラテンアメリカの捉え方を踏襲していると思われます。私はそうした旧来の「従属論」には与せず、一周遅れの先頭者としてラテンアメリカが新しい社会経済を構築する可能性があると考えています。

世界史を見れば、大きな変化や問題は 周辺から発生することが多いと思われます。現にウクライナはヨーロッパの辺境にあり、沖縄も日本の辺境にあります。資本主義の中心地はもはや自己革新能力を失いとりあえずは衰退するということは、ローマ帝国が滅び、スペイン帝国が滅び、大英帝国が没落し、世界史の中心は絶えず移動しつつあることから推察できます。

織田信長や秀吉、家康、いずれも周辺の人物が天下人になるように、資本主義も金融資本主義にまで発展し極端な人間疎外となり、人類にとって機能不全になりつつあります。いわゆるSDGs 目標は資本主義の延命策と言う人もいますが、いずれにせよ、資本主義が機能不全になりつつあることを示しています。では資本主義を さらに改良するか、あるいは新しい原理で社会経済を組み立てるのが問いとして立てることができます。

ウクライナ戦争は資本主義的(西側の)体制とグローバル化の有効性がなくなりつつあることの証明だと思えます。国際社会 あるいはグローバルサウスを欧米に従属させようとする願望はもはや実現しないと思われます。国際社会は自由と専制の対立というものではなく、欧米の没落とそれ以外の世界の主役の交代を示唆するものだと思います。従来の資本主義的手法をめざさない、とりわけラテンアメリカの動向が注目されるべき所以と思われます。

従来の資本主義に対抗する政策手段は、歴史的に周辺社会主義(ソ連、中国)、旧植民地開発独裁(アフリカ、アジア、ラテンアメリカ)、さらには資本主義自体の福祉国家、環境国家などの修正がありましたが、いずれも不十分な結果でした。グローバリゼーションが機能不全になるとすれば、非グローバルすなわちローカル地域における社会経済の充実化という協同組合的社会的経済連帯経済という発想の有効性が高まると考えられます。そして新しいグローバリゼーションが構築されるのではないのでしょうか。

私の見るところカントは 世界永遠平和は実現しないということ逆説的パロディとして「永遠平和のために」を書いたと考えておりますが、近代国家・

政府というものが誕生して二百年ほどですが、その賞味期限は切れつつあり、私たちは新しい社会のあり方を模索する必要があるのではないかとおもっております。はるか彼方にマルクスの言う国家の消滅というイメージがぼんやりと見えるような気がします。

現時点でラテンアメリカは新しいオルタナティブ模索の最良の試行錯誤をしている最中だと思っております。